平成１６年　７月　９日発行

北海道国際理解教育研究協議会　会報 第５８号

会長　眞木　孝輝　　事務局長　池田　幸一

「小学校の英語活動」

北海道国際理解教育研究協議会
会　長　眞木孝輝
（札幌市立もみじ台西小学校長）

平成１５年度の文部科学省の調査で，総合的な学習の時間等で英語活動を実施している公立小学校が全国で８８．３％にのぼることが判明したそうである。

しかも，総合的な学習の時間のない１年生で６７．１％，２年生で６７．７％が特別活動や休み時間，放課後に実施しているそうである。

その主な英語活動の内容は，各学年共に９割を超えて「歌やゲームなど英語に親しむ活動」に取り組み，次いで「簡単な英会話の練習」や「英語の発音の練習」などに取り組んでいることが分ったという。

どうやら総合的な学習の建前は別として，小学校教育における英語活動（英語授業）への勢いは高まるばかりといえる。

本会でも，小学校における「英語活動」（※教科としての英語授業ではない）について研究を重ねてきているが，あくまで総合的な学習の時間の中での**国際理解教育における『英語活動』**であることに留意していただきたい。

ただ全海研の大会で感じた全国的な国際理解教育の流れを見ると，都道府県によっては小学校段階の英語授業をめざしての具体的な研究（テキスト作成等）を進めているところも多い。

札幌地区も今年度より「小学校段階に英語が導入された時のことを想定しての研究」が始まったと聞く。

どうやら「小学校に英語教育を！」は大都市を中心として大きな声となり，しだいに小学校教育の改革への大きな潮流となってきていることは否めないと思う。

となると本会としても総合的な学習の時間における国際理解教育だけではなく，近い将来にコミュニケーションの手段として教科英語が小学校に導入されたとしても慌てない十分な研究を進めておく必要はあると思う。

来る第２５回北海道国際理解教育研究大会・釧路大会においても公開授業の中で，又，課題別分科会の中で具体的な提案がされると聞いている。そこでの各地区・各会員の意見と英知を結集して議論を深め，本会としての今後のこの面での研究の取り組み方がかなり具体化していけるものと期待をしているところである。

平成１６年度

北海道国際理解教育研究協議会事業計画

１．基本方針

２１世紀を生きる北海道の子供たちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

・学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業実践を通して深める。
・新しい教育の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
・各地区との交流を深めるとともに、研究を支える組織の整備を図る。

２．事業内容（研究団体として北海道の教育に貢献する）

（1）全道大会を開催し、研究成果を交流する。
（2）研究成果の交流のため、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
（3）「会報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
(4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、各地区の研究推進に協力する。
(5) 派遣教員と帰国教員に対し、研修会を開催し、それぞれを支援する。
(6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集し、インターネットでの情報提供や交流を行う。

３．今年度の重点

(1) 第２５回北海道国際理解教育研究大会　釧路大会の成功を図る。
・研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
・北海道の国際理解教育の向上に努める。
(2) 地域に密着した各地区の研究の深化と交流を図る。
・研究主題を共通の窓口としながら、各地区の独自性を発揮した研究を推進する。
・地域、時代の要請を生かした研究を進め、会員の意識の向上を図る。
・帰国教員の貴重な体験を、地域の教育に生かす。
(3) 総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を探る。
・総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を積極的に実践し、地域に広げる。
・小学校英語活動の在り方を各地区で研究実践を深め、研究大会などで交流を行い地域の実践に生かす。

【役員名簿】

顧　問　石田　省子（第６代会長）
　　山内　武道（第７代会長）
　　高橋　承造（第８代会長）

会　長　眞木　孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）

副会長　小泉　吉民（北見市立相内小学校長）
　　高野　英弥（釧路市立柏木小学校長）
　　伊藤　和幸（江別市立第二小学校長）
　　大津外志男（岩見沢市教育委員会指導室長）
　　豊田　　收（乙部町立乙部中学校長）
　　辻口　　徹（札幌市立簾舞小学校長）

監　事　青山　信一（別海町立上西春別中学校長）
　　飯田　幸三（南茅部町立木直小学校長）

理　事　松倉　康夫（旭川市立緑が丘小学校長）
　　今泉　勁介（室蘭市立武揚小学校長）
　　本間　　武（帯広市立花園小学校長）
　　齋藤　順一（日高町立日高小学校長）
　　加賀　政治（小樽市立望洋台小学校長）
　　射守矢秀治（寿都町立寿都小学校長）
　　後藤　隆司（留萌市立潮静小学校長）
　　本間　秀昭（函館市立銭亀沢中学校長）

【事務局】

事務局長　池田　幸一（札幌市立新陵東小学校長）
次　　長　後藤　　宏（札幌市立南の沢小学校長）
　　石塚　信彦（滝川市立東小学校教頭）
　　橋本　直樹（蘭越町三和小学校教頭）
　　済藤　和彦（釧路市立東栄小学校教頭）
　　桜田　弘道（置戸町立秋田小学校教頭）
　　中村　一治（北広島市立広葉中学校教頭）
　　笹木　卓三（帯広市立第六中学校教頭）
　　中村　　淳（札幌市立駒岡小学校教頭）
　　齋藤　吉文（札幌市立みどり小学校教諭）
　　佐野　聡恵（岩見沢市立北真小学校教諭）
　　高木　　司（旭川市立光陽中学校教諭）
研究部長　中村　　淳（札幌市立駒岡小学校教頭）
副 部 長　小野　博史（札幌市立藻岩南小学校教諭）
　　石原　和人（札幌市立元町小学校教諭）
　　向井　秀樹（旭川市立聖園中学校教諭）
　　荒川浩一（教育大学付属釧路中学校教諭）
　　河原　　賢（北見市立西小学校教諭）
　　杉原　將貴（北広島市立広葉中学校教諭）
　　河井　義徳（幕別町立白人小学校教諭）
　　森　　雅彦（札幌市立平岸小学校教諭）
　　加世田一憲（札幌市立常磐中学校教諭）
　　相原　健吾（札幌市立札苗北中学校教諭）
庶務部長　横川　　隆（札幌市立白石小学校教諭）
副 部 長　大磯　俊一（小樽市立若竹小学校教諭）
　　吉田　英明（札幌市立手稲東中学校教諭）
　　川崎　　真（札幌市立東山小学校教諭）
広報部長　古里　和雄（札幌市立手稲西小学校教諭）
副 部 長　青山　孝博（苫小牧市立啓北中学校教諭）
　　山口あゆみ（札幌市立発寒東小学校教諭）
会計部長　澤田　　崇（札幌市立幌北小学校教諭）
副 部 長　箭内　浩之（札幌市立真駒内曙小学校教諭）
組織部長　廣島　直（札幌市立美しが丘緑小学校教諭）
副 部 長　佐藤　優樹（札幌市立宮の森小学校教諭）

研 究 大 会 案 内

〈全海研ホームページより〉

第３１回　全国海外子女教育・国際理解教育研究協議大会

「世界と子どもをひらき、つなぐ教育をめざして」
～地球時代の共生をめざした新たな学びづくり～

・**開催日**　平成１６年 8 月２日（月）9:00 ～ 8 月３日（火）16:00
・**開催地**　京都
　京都テレサ（京都市南区新町通九条下ル）
・**主な内容**
　実践事例発表会
　　海外子女教育・帰国子女教育等・外国人児童生徒教育
　　国際理解教育（小学校英語活動含む）国際理解教育（中学校）
　シンポジウム
　　「世界と子どもをひらき、つなぐ教育をめざして」
　　～地球時代の共生をめざした新たな学びづくり～
　テーマ別分科会
　　第１分科会（子どもの今～ひらき・つなぐ子どもの世界の復興）
　　第２分科会（子供たちと「ことば」の学び）
　　第３分科会（学校教育をひらき・つなぐ国際理解教育の視点）
　　第４分科会（世界・地域とつなぐ学びとしての国際教育）
　トーキングテーブル
　　「海外子女教育への道」

第２５回 北海道国際理解教育研究大会釧路大会

大　会　主　題
「地球を見つめ，自分を見つめ，未来を切り拓く児童・生徒の育成」

○　期　日　　平成１６年１０月１４日（木）・１５日（金）
○　会　場　　１日目　釧路市生涯学習センター「まなぼっと」
　　２日目　釧路市立柏木小学校・釧路市立春採中学校
　　〈公開授業〉〈授業分科会〉〈課題別分科会〉

詳しくは、釧路地方国際理解教育研究会より各小学校・中学校に案内文書がすでに送られておりますので、そちらをご覧ください。
なお、参加申し込みの案内は、８月に各学校へ送る予定です。

問い合わせ先　事務局
釧路大会事務局長
釧路市立愛国小学校　　川口　主紀
電話　０１５４－３６－５６８０

北海道国際理解教育研究協議会「ホームページ」をご覧ください

ホームページ開設に伴い、各種情報については、ホームページでご覧いただくことになります。また、E メールでのご意見・情報等は今までと同様に受け付けております。
また、海外にお住まいの会員の方々には、会報発行のお知らせを学校または、個人宛の E メールで送り、ご覧いただく形をとりたいと思います。なお、個人宛に「会報」文書を送ることを希望される方は、その旨Ｅメールを下さればお送りいたします。

巡アオーラム

本の表題は，その時代の流れを示すとも言われる。教育書も，同じことが言えるかもしれない。国際理解教育の何か良い本はないかと図書目録をペラペラとページをめくっているとびっくりとする事実に気が付いた。

それは,国際理解教育の中での「小学校英語」の手引き書の多さである。「楽しい活動，だれでもすぐできる英語活動・・・」のように小学校英語についての手引き書が百冊近く紹介されているのである。その反面，「地球市民」「異文化理解」「多文化共生」などをキーワードにした本はほとんどないに等しいのである。ここまで「小学校英語活動」が一般化したことと，「国際理解教育＝英語」という図式が当たり前のようになっている現実に改めて驚ろかされた。

確かに，現場において，小学校英語活動が国際理解教育の一つの具現化の場となることは間違いのない事実である。しかし，英語を取り入れているから，「私の学校は英語活動をやっています。ですから国際理解教育を推進しています」と主張していることに何か納得できないものを感じるのは私だけだろうか。

釧路大会にむけての課題別分科会の応募の様子をみると，各地区で，「小学校英語」が，研究の中に位置付けられ，実践を深めていることがうかがえる。是非，大会での討論を通して，本会が目指す「小学校英語活動の在り方」をまとめるともに，言葉と文化のかかわりを発信していきたいものである。

図書紹介

英語を子どもに教えるな

著者紹介　　市　川　　力

１９６３年　東京生まれ　　中公新書ラクレ

教育学博士　　(中央公論新社)

前号に続いて「小学校英語」を話題にしたのは，この本に出会ったからである。

著者は，アメリカで１３年間日本人駐在員の子供たちとかかわり，子供たちが，海外で母国語とともに第二言語を獲得していくために苦悩する姿を通して,子供たちの英語教育を問い直している。

著者は「英語は必要だから子供の時から教えた方がいい」と考えるのは，英語を習得するのに苦労した大人の抱く「甘い幻想」だと言い切る。そして，「英語は子供のうちから学ぶのは当たり前」という考えに警鐘を鳴らす。そして英語を使って読み，書き，聞き，話せるようになるには，単に子供のうちから始めればよいのではなく，英語自体の訓練以上に思考力を高めることと伝えたい内容を持つことが大切であると主張する。

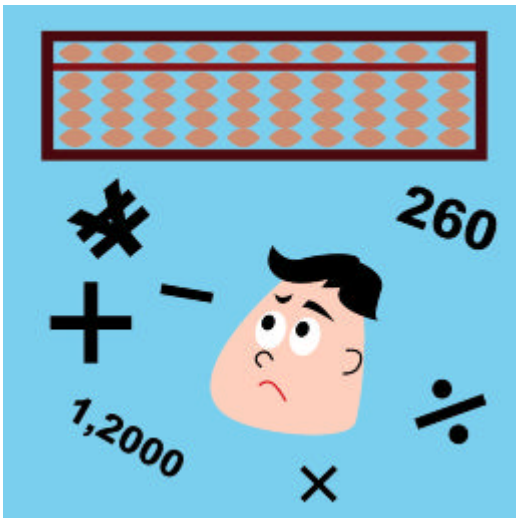
また,著者は，日本の英語教育現場を取材し,親が子供に抱くバイリンガル幻想を検証し，子供の英語教育の現状を明らかにする。

英語教育に関しては様々な本が出版されている。しかし，ややもすると自分の子供の例であったり，自分の思いを書いた物が多かった。しかし,本書は，１０００人以上の子供たちとのふれあいをもとに，かつ多くの取材に基づいて自分の考えを検証するとともに,グローバル化した時代における生きる力にも言及している。

小学校での英語活動の在り方を悩んでいる我々に，英語とどうかかわっていくことが地球市民ととしての力を育むことになるのか示唆を与えてくれる良書である。

（北海道国際理解教育研究協議会　研究部長　中村　淳）

会費納入のお願い



日頃より本会の活動につきまして、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、納入状況等につきましての照会は、会計澤田崇までお願い申し上げます。

〈照会先〉

事務局会計　澤田　崇（札幌市立幌北小学校）

TEL　011-726-2461　　FAX　011-716-0944

北海道国際理解教育研究協議会

年会費３０００円

郵便振り込みにてお願いいたします。

振込先　　澤田　崇　　口座番号０２７５０－４－３４０９

※通信欄には、氏名、支払い年度、おわかりでしたら会員番号もお書きいただけると幸いです。

ご意見・ご感想・情報をお寄せください

北海道国際理解教育研究協議会

E - mail　kokusai@hokkaido.777.ac

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんの情報をお待ちしております。

発行　北海道国際理解教育研究協議会広報部

会　　長　眞木　孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）
事務局長　池田　幸一（札幌市立新陵東小学校長）
広報部長　古里　和雄（札幌市立手稲西小学校）